

講演会報告「女性の医療と健康」 ～「女性診療科」って何？～

医療法人社団
丘のうえこどもクリニック
坂田 葉子

平成15年7月26日、旭川市民文化会館「大会議室」におきまして、講師に千葉県立東金病院院長平井愛山先生、国立函館病院産婦人科医師小葉松洋子先生をお招きし、一般市民及び医療関係者を対象とした、「女性の医療と健康」と題した講演会（旭川市医師会主催、女性医師部会担当）が開催されました。土曜日の午後にもかかわらず、180名もの参加（一般市民120名、医療関係者60名）をいただき、大盛況でした。講演の後にも質問が飛び交うなど、女性の皆さんの健康に対する関心の高さに、改めて驚かされました。まだあまり聞きなれない「女性診療科（女性専門外来）」というものを、講師お二人の講演を通して知っていただければと思います。

平井愛山先生

「千葉県立東金病院における

女性専門外来のあゆみ」

千葉県在住の平井先生は、「千葉県民の健康推進政策」の中心的な役割をされています。千葉県では、21世紀の新たな医療サービスの方向性として、①終末期医療から予防医学中心の医療への転換、②患者様1人ひとりに合わせた個の医療の提供（レディメイド型医療からオーダーメイド型医療への変換、性差に基づく医療の推進）を掲げており、予防医学への転換のために必要な、現状の把握と分析、特に性別・年齢別の分析を行いました。

その結果、まず性別による分析により、次のことが判明しました。女性は男性より主要死因として動脈硬化性の脳血管及び心疾患の割合が高い。なぜ？→各年齢層での血中コレステロールの値を調査。男性は40～50歳でピークをむかえその後低下していくのに対し、女性では50代より急速に高

値を呈し、以後この値が持続。なぜ？→閉経による卵巣機能低下のため、肝臓でのコレステロールの合成と分解のバランスが崩れるため。

次に、年齢別による分析により、次のことが判明しました。①年齢別の主要死因の構成割合を見たとき、男性では全年齢でその構成割合に変化がないのに対し、女性では65歳未満でのがんでの死亡率（特に乳がん）が圧倒的に高い。働き盛りの女性の乳がんによる死亡率が高い。②寝たきりの原因として、脳血管障害によるものの次に、高齢女性の骨粗鬆症に伴う骨折が多い。→骨粗鬆症は、閉経後の急速な骨量の減少が原因。その対策としては、閉経後のカルシウムの摂取量を上げる一方、骨量がピークを迎える10～30代の女性のカルシウム摂取量を上げなくてはならないが、年齢別のカルシウム摂取量を見てみると、ダイエットの影響か10～30代の女性は非常に少ない。

以上の結果から、女性の病気には男性とは大きく異なる点があり、個人個人に合わせたきめ細かな医療を行うためには、性差に基づく医療が不可欠だという事がいえます。今までの医療は、どちらかと言えば男性中心のもの、女性のための医療として、千葉県では次の「女性医療の3つの柱」を推進しています。①乳がんの早期発見（マンモグラフィーの設置、乳がんに対する知識の啓蒙）②女医による女性専門外来の開設、③骨粗鬆症の早期発見（X線骨密度測定装置の設置、カルシウム摂取促進などの食生活の改善、運動をはじめとするライフスタイルの改善）。そして、東金病院に、「女性専門外来」が開設されました。

医師が女性のため話しやすい、診療時間が長いため十分に話が聞いてもらえるなど診療に対する患者さんの反応はいい反面、予約が混雑し、待ち時間が長いなど今後の課題も多いようです。

小葉松洋子先生

「女性外来と性差を考慮した医療」

「産婦人科医は女性の生涯のかかりつけ医たれ」。この日本産婦人科学会の提言にもかかわらず、内診や男性医師への羞恥心などから、産婦人科は女性にとって敷居が高く、受診するにはなかなか勇気のいる診療科です。病院へはかからずに一人で悩んでいる女性が多いのです。そんな女性達のために、産婦人科という枠を超え、女性が何でも気軽に相談できる外来を作ろうと、小葉松先生は国立函館病院で、北海道で初めての「女性専門外来」を立ち上げました。

先生の「女性専門外来」は、女性が何でも相談できるように総合外来の形をとっています。どのような症状、相談にも対応し、一人一人充分時間をかけて話を聞き、治療が必要な患者さんにはその症状に適した科の医師を紹介していきます。完全予約制で、週に一度小葉松先生自身が担当されていますが、やはり予約の待ち時間の短縮、担当の女医の確保が今後の課題のようです。今まで相談された患者さんの多くは、更年期障害や月経随伴症状・月経障害など女性特有なもので、不安によるセカンドオピニオンも多いとのことでした。

最後に、性差を考慮した医療についてと上手なかかりつけ医との関係について、先生の考えを述べられました。『性差を考慮した医療とは、単に「ピキニ医療（性差はピキニに隠れているところ—即ち乳房と外陰部）」ではなく、勿論男女の違いは、妊娠・出産・授乳だけでもありません。女性の体は一生ホルモンの影響を受けており、女性の一生を通じて起こるホルモンの変動による様々な身体の変調を理解し、それを考慮した医療を行うことこそ、真に性差を考慮した医療といえるでしょう。また、かかりつけ医を選ぶときには、まず自分にとって今何が一番重要なことなのか（待ち時間が短く、スピーディなことか、ゆっくりとした説明か）を考え、他人の評価ではなく、実際に自分がかかってどうだったかということを重点に決める

べきだと思います。そして、受診の際には時間経過による症状の変化の様子などをわかりやすく記載しておいた方が、医者側も症状をより理解しやすく、より満足した医療が受けられるでしょう。』

平井先生の綿密な調査に基づくデータは、とても説得力のあるもので、時間を忘れるほどでした。千葉県のような取り組みを、やはり女性知事であるこの北海道でもと期待します。また現場で働く医師としての小葉松先生の生の声は、とてもわかりやすく、参加した女性達の心を惹きつけたようです。お二人のお話を聞き一般市民も、「女性専門外来」への期待が高まったと思います。

旭川市医師会の役員及び事務局の皆様のご協力、ご支援のおかげで、この講演会を成功させることができました。この場を借りまして、お礼申し上げます。

追記

今回の講演会は、医療関係者のみならず、一般市民を対象とし、女性の健康について考えていただくとう企画したものです。参加者をお願いしたアンケートの結果も載せさせていただきたいと思っています。

アンケート集計結果

配布数：162枚、回答数：120枚（回収率74%）

1) 回答者の性別、年齢別内訳（回答者120人）

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
男性	1	1	1	4	2	0	9
女性	7	10	24	43	22	5	111
合計	8	11	25	47	24	5	120

2) 回答者の職業（回答者116人：97%）

	人数	割合
主婦	53	46%
会社員・公務員・自営業	15	13%
医療関係者（看護師など）	24	21%
学生	4	3%
医師・歯科医師・薬剤師	16	16%
その他	4	3%

3) 講演会の評価（回答者120人：100%）

	人数	割合
とてもよかった	67	56%
よかった	38	32%
まあまあ	6	5%
少し不満	0	0%
不満	1	1%

4) 感想（複数回答あり）

- ・女性専門外来を旭川でも実現してほしい：55人
- ・よくわかった、参加してよかった：25人
- ・トータル医療、良い医療の実現に期待：12人
- ・女性専門外来のニーズを実感した：4人
- ・今後もいろいろな講演会を企画してほしい：2人
- ・女性医師の育成を望む
など。

